



平成 23 年 3 月 14 日 月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（1、2 月月報） **NEW**
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 2 月） **NEW**
- 非流行季のインフルエンザ発生状況の集計結果（第 2 報） **NEW**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 9 週 2 月 28 日（月）～ 3 月 6 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	8.27	→～↓	→～↓	→～↓	↓
2	感染性胃腸炎	8.11	→～↑	↑	→～↑	→～↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.69	↑	↑	↑	→
4	水痘	1.26	→	→	→～↑	→
5	伝染性紅斑	0.69	→～↑	→	↑↑	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 497 例で、前週報告の 438 例からやや増加。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤伝染性紅斑の順。インフルエンザの報告数（262 例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（157 例）も、増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（19 例）は、やや増加。伝染性紅斑の報告数（16 例）は、減少。水痘の報告数（23 例）は、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内 127 例、郡山 HC 管内 135 例で、奈良市 HC 管内のみ注意報レベル（11.55）がなお継続中である。また、奈良市 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が 1 例（5～9 歳児）報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、312 例から 342 例と増加した。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順であった。インフルエンザは 169 例と減少傾向であり、感染性胃腸炎は 102 例と増加傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎 4 例の報告が桜井保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県南部地区概況 報告数（第8週→第9週）は79例→66例と減少。報告のあった疾患は①感染性胃腸炎（14例→25例）、②インフルエンザ（53例→24例）、③A群溶連菌咽頭炎（5例→10例）、④水痘（6例→4例）、⑤百日咳（1例→2例）、⑥伝染性紅斑（0例→1例）。（柳生 記）

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（1、2月月報）】

平成23年1月および2月に、定点医療機関より奈良県内の保健所に届出された月報告対象の定点把握感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数（人）

疾患名/報告月	2月		1月	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	8	0.89	4	0.44
性器ヘルペスウイルス感染症	3	0.33	1	0.11
尖圭コンジローマ	1	0.11	—	—
淋菌感染症	3	0.33	2	0.22

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	2月		1月	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	22	3.67	21	3.50
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	1.33	11	1.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.83	3	0.50
薬剤耐性アシネトバクター感染症	—	—		

*2月1日から、薬剤耐性アシネトバクター感染症が対象疾患に追加されました。

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 2 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、2月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成 23 年 2 月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
コクサッキー	A6		1		ヘルパンギーナ（1）
コクサッキー	B2		2		インフルエンザ（1）、上気道炎（1）
ロタ	A			2	感染性胃腸炎（2）
ノロ	GI		1		感染性胃腸炎（1）
ノロ	GII		3		感染性胃腸炎（3）
インフルエンザ	A/H1N1 pdm	7	9	3	インフルエンザ（19）
インフルエンザ	A/H3		1	6	インフルエンザ（7）
インフルエンザ	B	2		3	インフルエンザ（5）
未同定ウイルス		1			感染性胃腸炎（1）

（保健環境研究センター 記）

非流行季のインフルエンザ発生状況の 集計結果(第2報)

平成 22 年度奈良県感染症発生動向調査事業
平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

4. 奈良県内の地域別発生状況

インフルエンザの患者は、北和と中和在住者がほとんど(86%)で、奈良市保健所管内では、12月に入り新型インフルエンザが圧倒的に多く検出されたことから、県全域の新型に占める割合は45%にのぼりました。郡山保健所管内では7月に新型が検出され、その後は奈良市と同様の傾向でした。葛城保健所管内では他の地域と異なり、11月に香港型が毎週十数例検出され、県全域の香港型に占める割合は58%に達しましたが、12月には他の地域と同様、新型が増える傾向にありました。桜井保健所管内では、11月以降に新型および香港型が併行して検出されましたが、12月下旬には新型の検出が突出しました。なお、吉野保健所管内および内吉野保健所管内では併せて新型が3件、香港型2件と発生数は少ないものでした。

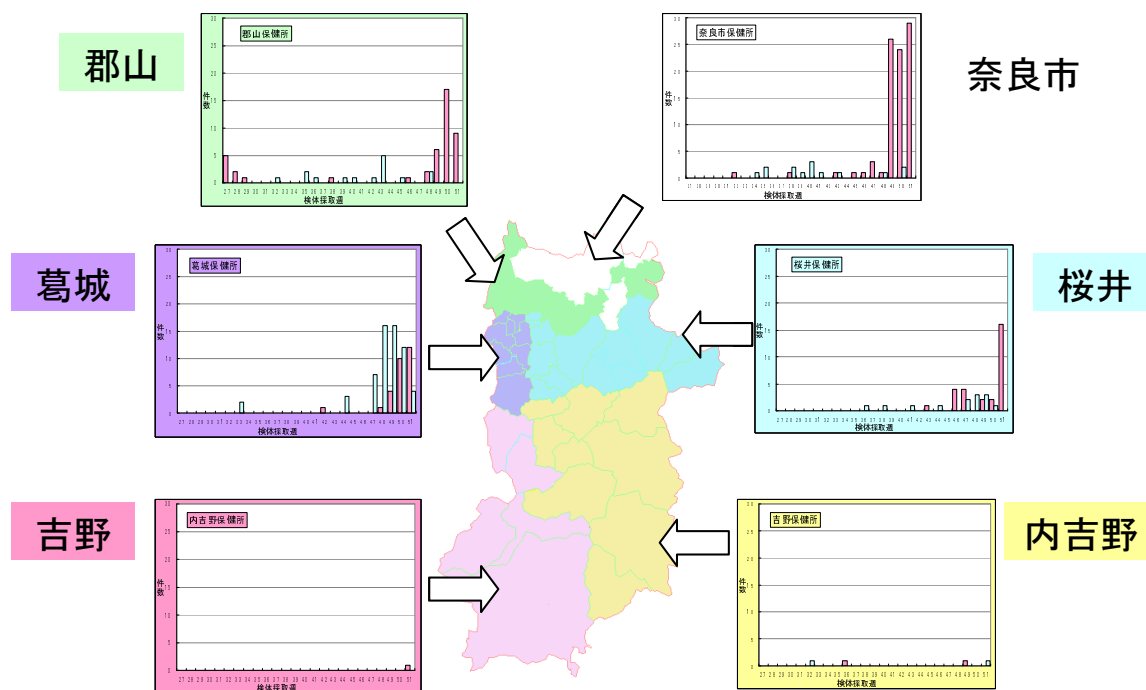
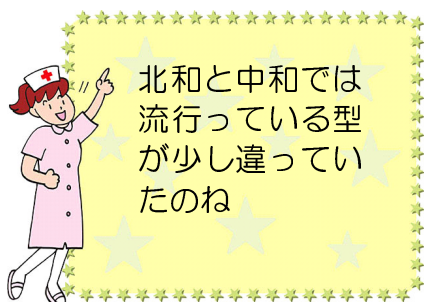


図5. 奈良県内の発生



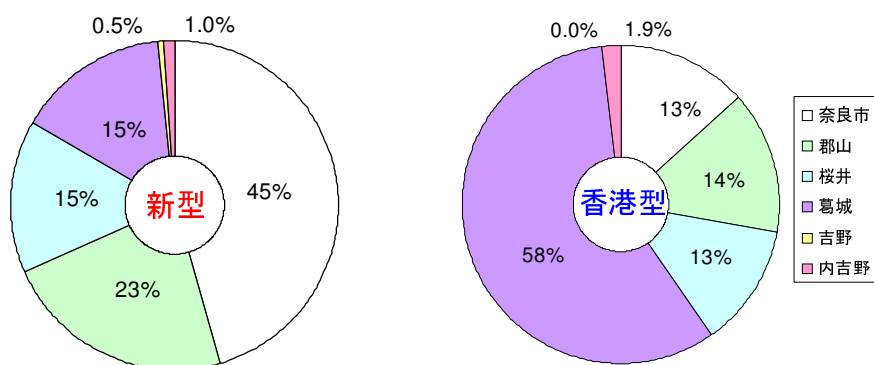


図6. 新型と香港型の各保健所における発生状況の比較

5. 今シーズンの流行は？

平成22年11月中旬時点では、新型インフルエンザは30%、香港型インフルエンザは70%の発生頻度でしたが、12月中旬に新型が50%を超え、平成23年1月7日現在では64%を占めています。前述しましたように、今シーズンの流行は、香港型が主流で新型が混在すると思われました。しかし、中和地域で優勢であった香港型もピークは12月末で一旦落ち着き、新型がさらに増加しつつあります。今シーズンの本格的な流行では、新型が主流になり、平成23年1月以降は新型が90%を占めています。

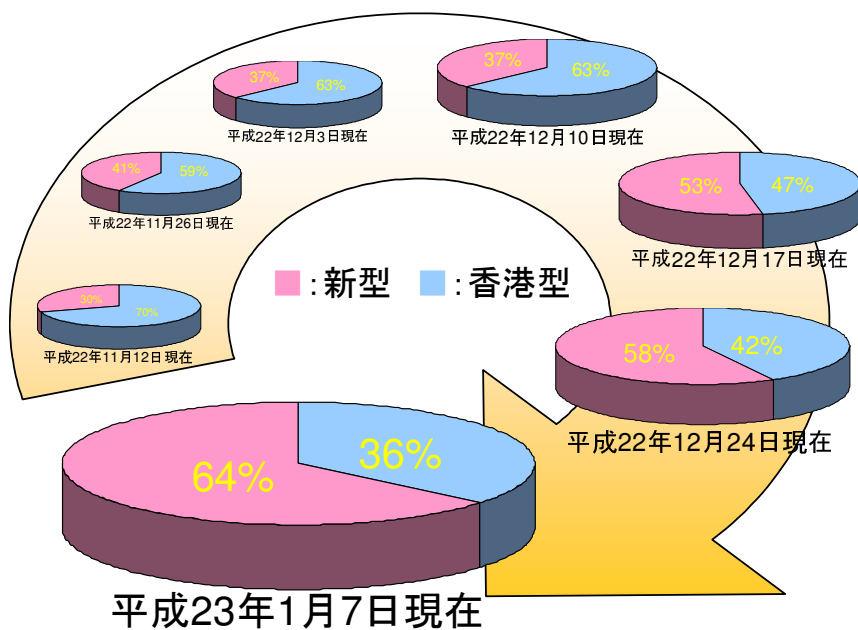


図7. インフルエンザウイルス亜型の推移



(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県ノロウイルス検出状況

平成22年度感染症発生動向調査事業
平成22年度食品の検査による安全確認事業

☆ 集団感染症（検出事例数）

- G I** 4月：小学校（1）
11月：小学校（1），幼稚園（1）
2月：小学校（2）
- G II** 5月：小学校（1）
6月：特別養護老人施設（1）
11月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）
12月：小学校（1），幼稚園（1），
保育園（1），他（5）
1月：特別養護老人施設（1）
2月：小学校（2），老人保健施設（3）

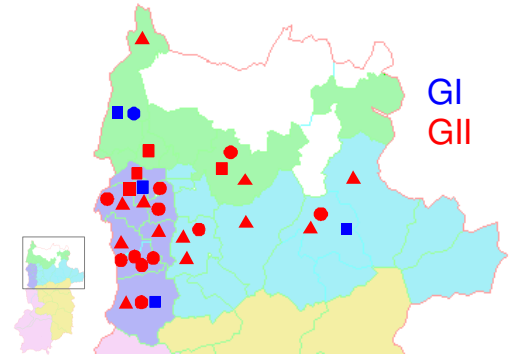


図1. ノロウイルス集団発生状況
(食中毒事例を含む)
○：保育所・幼稚園、□：小学校、△：老人保健施設、他
(平成23年3月4日現在)

☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）

- G II** 5月：京都府関連（2）
7月：大阪市関連（2）
11月：他（1）
12月：老人福祉施設（1），他（1）
1月：大阪市関連（1），他（1）
3月：大阪市関連（1）

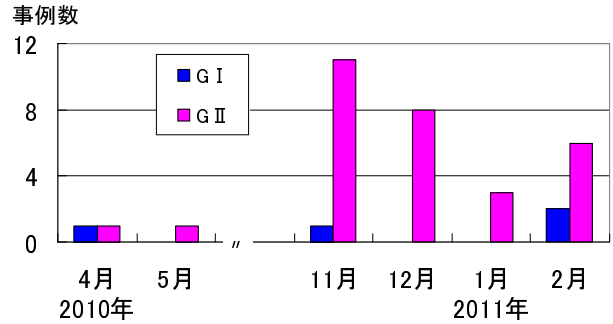


図2. ノロウイルス集団・食中毒月別発生状況

今年度の県内におけるノロウイルス集団・食中毒事例発生状況をまとめました。地域的には、県西部に発生が集中したことが特徴です（図1）。月別の発生状況では、2009年11月をピークとしていったん減少しましたが、2月以降ふたたび増加のきざしが見られます（図2）。

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）